

大津小便り

平成二十七年
七月十六日(木)
N O 六
文責 吉良智恵美

かけがえのない命・・校内人権月間

「夢を持ち、笑顔と自信にあふれる子どもの育成」は、本校の教育目標です。
去る九日の熊日に、岩手県の中学二年生の男子生徒の自死の記事が掲載されました。これによりまずと、男子生徒は以前、学級担任に提出する「生活ノート」に、同級生からの暴行や自殺を示唆する内容を記していたというのです。「死にたい」という記述も、四月下旬にあったそうです。翌日の新聞では、六月に学校が実施したアンケートを元に予定していた本人への面談がなされていなかったことも分かりました。さらにショックだったのは、男子生徒が、実際に嫌がらせや暴力を受けている現場を見ていた保護者や生徒が、複数いたということでした。七月五日に、列車に身を投じた男子生徒。四月以来ずっと助けを求め続け、また、気づき助けられる人やチャンスがたたくさんあったのに、なぜ、彼を救えなかったのでしょうか。担任の教師としての人権感覚を求める一方で、担任一人の課題では済まない根本的な問題も含んでいると考えます。
本校には、現在六百二十七名の児童がいます。六百二十七通りの毎日が、あることになりなす。どんなことを感じ、どんなことを想いながら毎日を過ごしているのか、全てを理解することは出来ません。しかし、その「笑顔」を無くしてしまういつもと違う何かが起こった時に、少しでも早く誰かが気づき、声をあげられる教師集団でありたいと強く思います。
今回の悲劇を対岸の火事とせず、再度、本校の教職員一人一人の教師としての人権感覚や取組、そして学校体制の在り方を問い直したいと思います。本校職員は、校内ですれ違いう子どもたちに、日に何度でも「挨拶＋１」の声掛けを意識してやっています。「見守つてるよ。」のメッセージにもしたいのです。

「校長先生、手伝います。」と言って、脳に来てくれた六年生。朝のボランティアで草取りをしていた時です。学校を自分たちが、よりよくしようとする子どもたちの姿が、あちこちで輝く大津小です。

夏休み学習会・・今年は、各学校で・・
○昨年度まで、町教育委員会主催でも実施されていた夏休みの学習会ですが、今年から、各学校に任されることになりました。
○もとより本校の参加者が多かったようで、二年生以上を募ると、本校の参加希望者は相当数になる見込みです。
○本校の学習会は、教育相談と同時進行で実施しますので、担任外と町支援の先生方、それにボランティアの方で対応します。基本的には、自学形式になりますが、夏休みの宿題もOKです。
○夏休みは、自分で生活のリズムや学習習慣を維持しなければなりません。この機会を是非、有効に利用してください。

授業参観、お世話になりました。

十四日の授業参観は、お世話になりました。四月からの成長を感じてもらえたでしょうか？生活数理はどうでしたか？授業参観の前には、PTAによるブル開放に向け、救急救命法の講習会を実施しました。六十名以上の皆さんが真剣に心肺蘇生法を研修されました。大津小の子どもたちの命を守るため、よろしく願います。いよいよ夏休みです。有意義な休みにしてください。



学校訪問・・子どもの姿が光りました。

「わつ、もう夏休みだ。」そんな声が聞こえる職員室です。次々に行事が続き気付けば来週から夏休み。七月八日(水)の教育事務所による学校訪問は、四月以来の教育成果を検証する場になりました。事務所からは、学力向上の成果や「言語活動」を位置づけた学習展開、特に子どもたちの素直に頑張る姿などを、大津小学校の「よさ」として評価していただきました。「生活数理」の研究開発は、他教科の基礎基本の定着が基盤です。数名の教員が素晴らしいだけでは、全校児童の力とはなりません。全職員が指導法を共有し、全児童の「よさ」を引き上げたいと思います。



林先生と子どもたち



中松先生とNIEの学習

「あ、これって上田先生だ。」
○校長室にきた5年生数名が、校長室の写真を見て声を上げました。理科や科学クラブの時間に、支援ボランティアとして来て頂いている上田先生は、実は、本校の元校長先生です。私が若い頃、上田先生ご夫婦にお世話になり、今でも親しくさせていただいています。理科の先生として、豊かな経験をお持ちですので、支援をお願いしたところ快く引き受けてくださいました。有り難いことです。
○上田先生に加え林先生も、朝の学習支援に引き続き昼まで、週に1日ほど、算数の授業の支援をしていただいています。朝学習に放課後学習、読み聞かせや環境整備、たくさんの皆様のご協力に支えられています。心より感謝します。